



いのち、食、農を原点に4期24年間

みなさんの支えに 心から感謝いたします。

日本共産党
参議院議員

紙 智子

国会報告

2001年の参議院選挙で初めて国会に送っていただき、4期24年間、参議院議員として活動をしてまいりました。今期7月28日をもって任期を終えます。これまで温かい励ましや、時には、厳しい叱咤激励などを含め支えていただいた皆様ありがとうございます。

「いのち・食・農」を原点に、農林水産委員会や、ODA・沖縄・北方特別委員会、東日本大震災復興特別委員会などに所属し、活動してまいりました。元気に活動を続けてこられたのは、私の周りには多くの国民と支持者・後援会のみなさんがいてくれたからです。自民党政治の社会保障の切りすて、戦争する国づくり、農業・農村つぶしの悪政と対決してきました。

全国各地に調査・懇談・集いなどに出かけ、学んだことを国会論戦に生かしてきました。農山漁村では「自民党にはもう任せられない」と、みずから未来像を描き、開拓精神を発揮して切り開く生産者らの姿に学びました。東日本大震災、原発事故の被災地を訪ね、被災者支援、原発ゼロを政府に迫ってきました。沖縄の基地があるがゆえに引き起こされる問題、戦後80年たっても未解決の領土問題やアイヌ民族の先住権など、課題は山積しています。

国会議員ではなくなりますが、引き続き党本部で、国会とも連携しながら取り組んでまいります。

希望ある未来へ!ともに歩みます。

農林水産委員会は、岩淵友議員に
引き継ぎました。ともに頑張ります!



江藤農水相、コメ不足認める

紙議員は、3月の予算委員会でコメの民間在庫が少なく、このままでは6月に底をうちコメ不足になると指摘すると、江藤拓農水相は「リスクがある」と答弁しました。政府は、「コメの消費が減っている。作りすぎると米価が下がる」と、生産者に減産を求めてきました。紙氏は、ギリギリの需給政策からゆとりある需給政策に変え、コメの増産に踏み出すよう求めました。



3月30日の百姓一揆＝東京

福島農業の再生を

東京電力福島第1原発事故から14年。福島県の農家が健康を守る対策を求めても、不十分で放置されたままです。紙議員は、除染作業員のような放射性物質の管理などの対策に乗り出すよう求めています。



福島農民連の要請(4月22日)

増えるタッチパネル式食券機 視覚障害者はつかえない

大手の牛丼店や飲食店などで食券の購入がタッチパネル方式になり、視覚障害者の利用が困難になっています。入店したときに案内人がいなければ、タッチパネル機の場所が分からず、注文するにもメニューの項目もわからない。下膳も困難になっていると紹介すると、江藤拓農水相は「企業には社会的な責任がある。フードサービス協会に協力を求めたい」と答えました。

新規就農者対策を国家プロジェクトに

毎年8万人もの離農者がいるのに、新規就農者は3万人にとどまっています。放置すれば食料自給率を上げることも、地域のコミュニティを維持することも困難になります。

総務省は「地域おこし協力隊」を増やす目標を持っているのに、農林水産省は新規就農者を増やす目標を持っていません。



空間・城里地域有機農業推進協議会の涌井義郎さんとの懇談(2月26日)

紙議員が専門家が提唱している「新農家100万戸育成計画」を紹介すると、江藤農水相は「検討材料の一つとして有効」と答えました。

アイヌの遺骨を コタンに返還を (4月21日)

国立公文書館



アイヌ墓地から無断で盗掘した遺骨は、大学や博物館、民族共生象徴空間(ウポポイ)に1921体保管されています。紙議員は、研究目的で盗掘したのに、何故、アイヌが返還してほしいと申請しなければならないのか。アイヌの遺骨をコタン(集落)に返還するよう求めました。

河野談話に沿って 民間資料の収集を(4月21日)

「河野洋平官房長官談話」(1993年)は、日本軍「慰安婦」問題について「政府としても、今後とも民間の研究を含め、十分に関心を払って参りたい」と明記しています。ところが、民間研究者が発見した関連資料を受け取り拒否・排除していたことが明らかになりました。紙議員は、「河野談話」を後退させるべきでなく、調査するよう求めました。

ガザに平和を、攻撃許すな!(3月25日)

イスラエルがパレスチナ自治区ガザ全域への大規模攻撃を再開して多数の死傷者が出ています。紙議員は、米国がこの攻撃を容認していることに対して日本政府として抗議するよう求めました。

選択的夫婦別姓の実現を(4月23日)



党国会議員団が企業団体献金禁止法を提出(3月11日)

